へ13
2946
71

賣茶翁題錢筒詩

煎茶日〻起松風
醒覺人間仙路通
要識盧仝真妙旨
傾囊先入箇錢筒

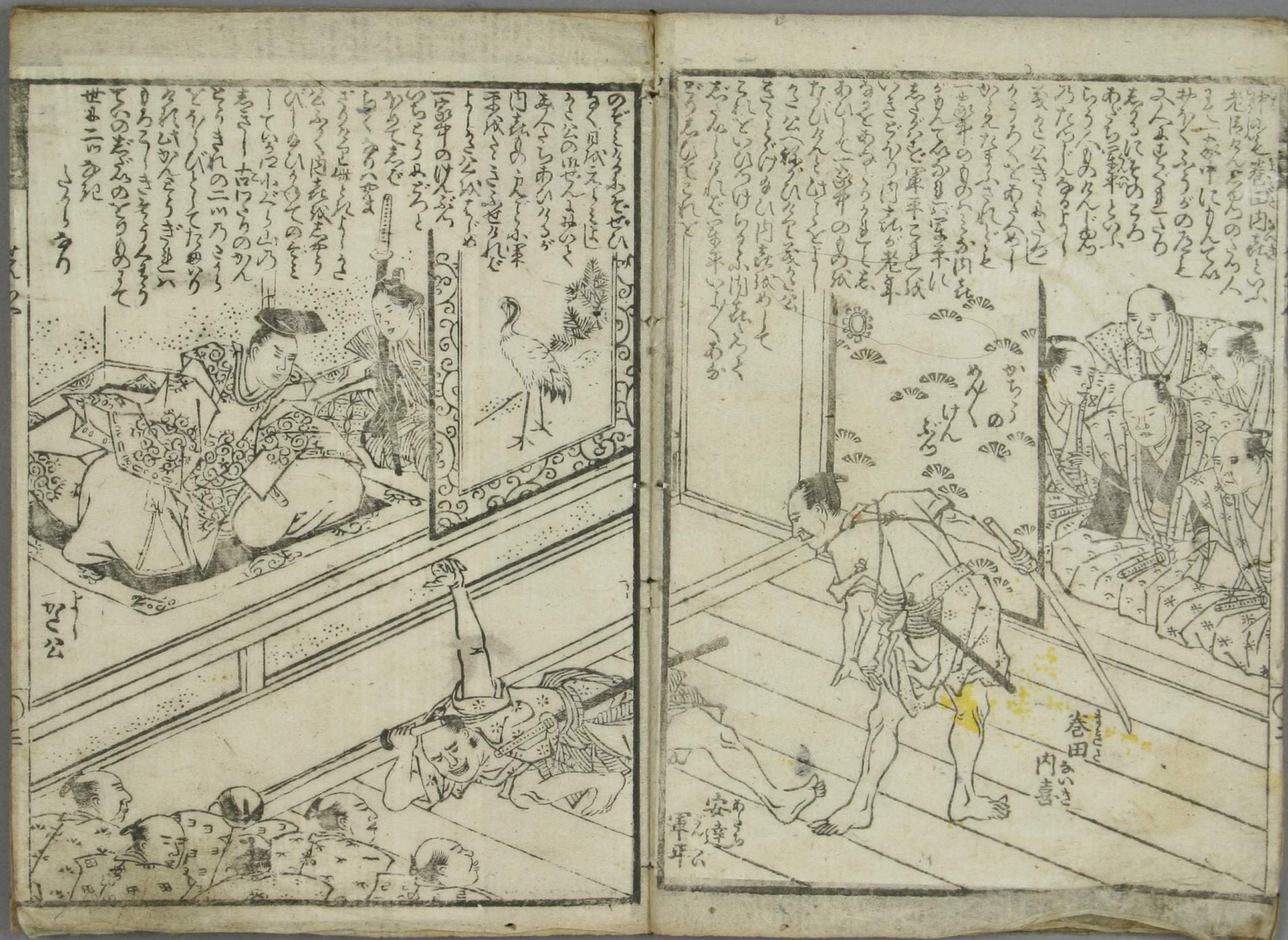
文化二年乙丑正月發兌

山東京傳著

仙鶴堂主人誌

71
特
へ13
2946
71

いっきの
ぶんし
ぶの方


からうの
けんぶつ
巻田
内喜
安達
軍平

軍平
内喜

内義
芝山勇助
巻田門吉

茶銭黄金百鎰
半文銭まで
たごのことをゆくこそ
門番
三人が
いんきょ
老の

御体所
梶の葉

世説
夏

通町
七ツ目
新板

そのころハ六じゆう三ぢまち
まちまちとあり
のびぜんといふ
ハ
林氏実名
とおゐ徒
いとのうち
たまと
うりく
こうこの
こう三四海之名
ゆ代のよし
りん不ハ
つけ
奇
千金
○たとへ
わ
天人の
ぞう
ある
○二番町の

八代集抄
源氏物語抄
まるさ田り人義

おくら
門義
勇助

男助

あるとき軍平八二一分の
宝玉うれし千両の金を
ふところのうちにつりこと
ばとり江戸へゆくとて
くるぶしをのせつけること
大井川のまえをこえるとき
おもうにたえらくこと
るハいをつけるとき
川下ふかくとくゆくこと
あるとき
そのまゝふうせうこれ
天ぐろのくるぶしをこと
ありその郎川ぐるま
たまのうちをとてかりく
いのちをひろむとこと
ぶ藤丸金のこのこと
うりく
よくぶりぶりをこと
にすぐこと
軍平江戸へくだり
ゆくとき
ふと名ぶ
雲中ふと名をとく
りんぎあつたもうん
その日をおりれ
すゝがらゆうん
もう二分のうち
ふのもをぶ
井つけでん
おもうん

水琴圖
京傳作
通油街仙鶴堂梓
賣茶翁
祇園梶
復讐煎茶
濫觴
下

「勇助八百太小紙
「やく江戸へつき

雲中みくんぶろ

雪助八百八ふくびん
芝山雪助

京傳店出たなこ人

山東庵京傳作

賣茶翁像

讀書丸

一包 代七文半

第一さきゝんとはよゝしりの丸ゑと
ゝくを公賢のきよゝそんきのそふりく
ゝろゝひゝゝ老若男女ゝかゝこゝばゝを
ゝりゝさん用るべしなひふゝゝしくんさくゝ

小兒無病丸

ゝゝんむゝしのゝゝ小兒ちびゝのゝ
ゝりゝゝゝゝゝゝゝ用ゝゝゝ

一包 百十六文半 五十六文

賣弘所 京傳店